

## 感染症定期報告に関する今後の対応について

平成16年度第5回  
運営委員会確認事項  
(平成16年9月17日)

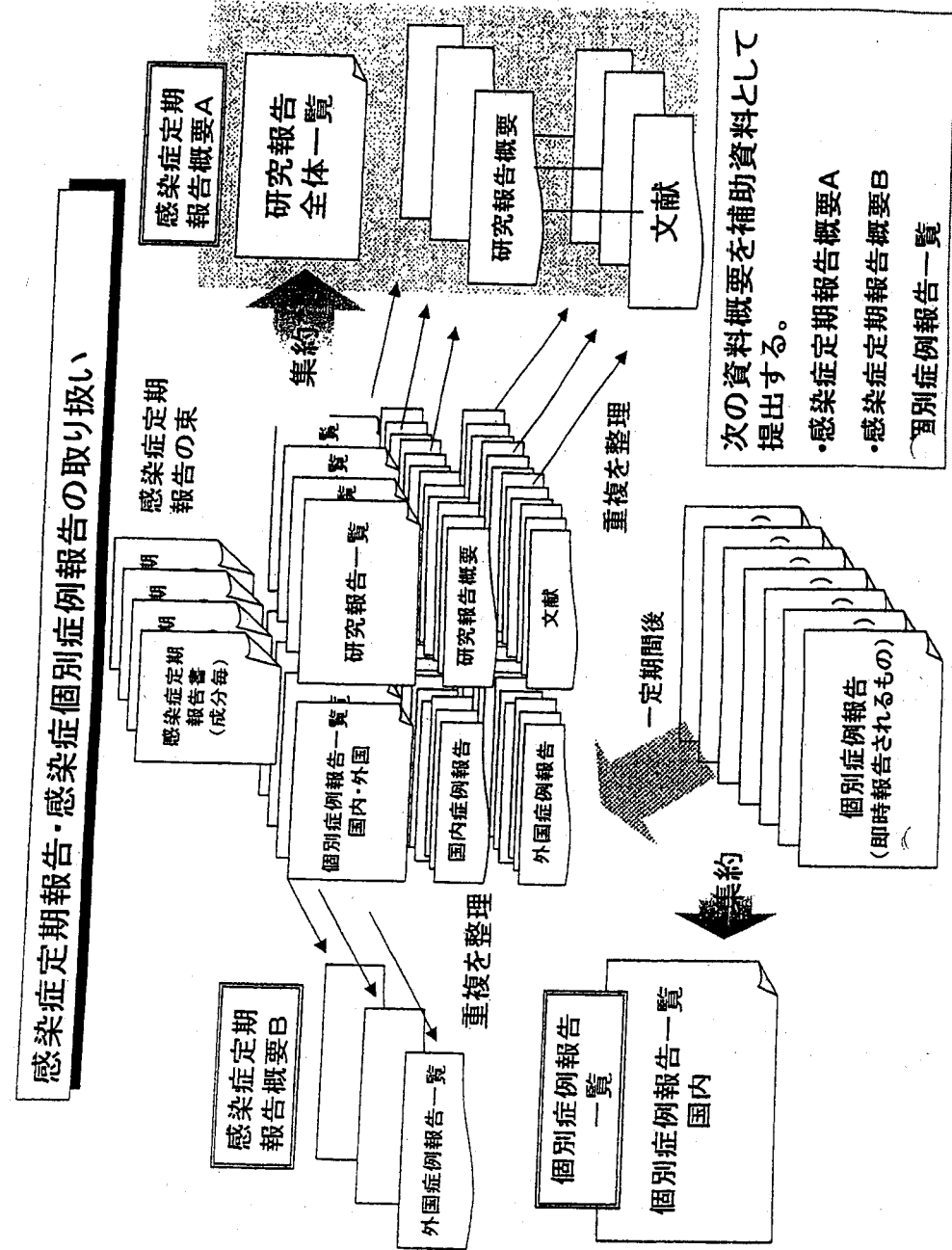
## 1. 基本的な方針

運営委員会に報告する資料においては、

- (1) 文献報告は、同一報告に由来するものの重複を廃した一覧表を作成すること。
- (2) 8月の運営委員会において、国内の輸血及び血漿分画製剤の使用した個別症例の感染症発生報告は、定期的にまとめた「感染症報告事例のまとめ」を運営委員会に提出する取り扱いとされた。これにより、感染症定期報告に添付される過去の感染症発生症例報告よりも、直近の「感染症報告事例のまとめ」を主として利用することとする。

## 2. 具体的な方法

- (1) 感染症定期報告の内容は、原則、すべて運営委員会委員に送付することとするが、次の資料概要を作成し、委員の資料の確認を効率的かつ効果的に行うことができるようにする。
  - ① 研究報告は、同一文献による重複を廃した別紙のような形式の一覧表を作成し、当該一覧表に代表的なものの報告様式(別紙様式第2)及び該当文献を添付した「資料概要A」を事務局が作成し、送付する。
  - ② 感染症発生症例報告のうち、発現国が「外国」の血漿分画製剤の使用による症例は、同一製品毎に報告期間を代表する感染症発生症例一覧(別紙様式第4)をまとめた「資料概要B」を事務局が作成し、送付する。
  - ③ 感染症発生症例報告のうち、発現国が「国内」の輸血による症例及び血漿分画製剤の使用による感染症症例については、「感染症報告事例のまとめ」を提出することから、当該症例にかかる「資料概要」は作成しないこととする。ただし、運営委員会委員から特段の議論が必要との指摘がなされたものについては、別途事務局が資料を作成する。
- (2) 発現国が「外国」の感染症発生症例報告については、国内で使用しているロットと関係がないもの、使用時期が相当程度古いもの、因果関係についての詳細情報の入手が困難であるものが多く、必ずしも緊急性が高くないと考えられるものも少なくない。また、国内症例に比べて個別症例を分析・評価することが難しいものが多いため、緊急性があると考えられるものを除き、その安全対策への利用については、引き続き、検討を行う。
- (3) 資料概要A及びBについては、平成16年9月の運営委員会から試験的に作成し、以後「感染症的報告について(目次)」資料は廃止することとする。



## 感染症定期報告概要

(平成21年12月10日)

平成21年6月1日受理分以降

- A 研究報告概要
- B 個別症例報告概要

## A 研究報告概要

- 一覧表（感染症種類毎）
- 感染症毎の主要研究報告概要
- 研究報告写

### 研究報告のまとめ方について

- 1 平成21年6月1日以降に報告された感染症定期報告に含まれる研究報告（論文等）について、重複している分を除いた報告概要一覧表を作成した。
- 2 一覧表においては、前回の運営委員会において報告したものの以降の研究報告について、一覧表の後に当該感染症の主要研究報告の内容を添付した。

感染症定期報告の報告状況(2009/6/1~2009/8/31)

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献No.
90156	2009/6/2	90236	A型肝炎	Vox Sanguinis 2009; 96: 14-19	加熱及び高静水圧の物理的不活化処理法で4株のA型肝炎ウイルスの不活化を行ったところ、それぞれの処理はHAV感染性を3~5log10の範囲で低下させた。また、血液製剤のウイルス汚染に対する安全性を評価するのにもっとも適した株は、耐熱性のKRM238であった。	
90156	2009/6/2	90236	B型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 1880-1884	1971~2005年の35年間に虎ノ門病院に来院した急性HBV感染者153名および慢性HBV感染者4277名について5年間毎のHBVジェノタイプ/サブジェノタイプを調べた。急性感染者数は35年間で増加し続けた。慢性感染者数は1986~1990年が最大であった。ジェノタイプは急性感染者と慢性感染者で大きく異なった(A、B、C型:28.6%、10.3%、59.5% vs 3.0%、12.3%、84.5%)。最近では外国のサブジェノタイプB2/Baが増加する傾向がある。	
90173	2009/7/29	90337	B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 373-381	日本における、不顕性HBV感染者(HBsAg陰性)からの輸血によるB型肝炎感染に関する報告。	
90156	2009/6/2	90236	B型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 174-180	HBV DNA陽性かつ表面抗原(HBsAg)陰性オカルトHBV感染の検出感度を上げるために、HBV DNAとHBsAgを同時に濃縮する新規方法を開発した。二価金属存在下でpoly-L-lysineでコートした磁気ビーズを使用し、ウイルス凝集反応を増強させ、ウイルスを濃縮する方法により、HBV DNAとHBsAg量は、最高4~7倍に濃縮された。本方法により、EIAとHBV NATの感度が上昇し、HBsAg EIAを用いてオカルトHBV感染者40名のうち27名を検出することができた。	
90156	2009/6/2	90236	B型肝炎	日本肝臓学会第37回東部会O-85	日本の首都圏において、HBVの中でも慢性化率の高いgenotype Aは急速に増加しており、新規日本人キャリアからの二次感染が疑われることが急性B型肝炎症例の検討から明らかになった。	1
90156	2009/6/2	90236	B型肝炎	日本小児感染症学会第40回総会・学術集会E-20	母親がHBsAg陰性かつ家族内に患者以外のHBVキャリアが存在する成人及び小児HBVキャリアである7家族を対象とし、HBV全遺伝子解析に基づく分子系統樹を用いて感染源を検索したところ、3家族で父親以外の感染源の可能性があり、祖母からの感染は分子疫学的に感染経路を証明できた。	
90156	2009/6/2	90236	C型肝炎	第70回日本血液学会総会 2008年10月10-12日	再生不良性貧血の54歳女性で、初回輸血前検査はHCV抗体陰性、HCVコア蛋白陰性であったが、複数回輸血後、HCVコア蛋白が陽性化したため、遡及調査を開始した。保管検体の個別NATにより、1検体からHCV-RNAを検出した。患者と献血者のHCV Core-E1-E2領域の塩基配列が一致した。日本で20プールNAT導入後、初めて確認された輸血によるHCV感染症例である。	
90156	2009/6/2	90236	C型肝炎	日本血液事業学会第32回総会	1999年7月~2008年3月までにNATで検出された111本のHCV-RNA陽性検体のGenotype解析の結果、Genotype 2aが最も多く、1bと2bがほぼ同数であった。	
90156	2009/6/2	90236	E型肝炎	AABB Annual Meeting and TXPO 2008	2005~2007年に北海道で実施したプールNATによるHEV-RNAスクリーニングの結果、献血者の約1/8,300はHEV-RNA陽性であった。ほとんどの献血者は動物内臓を摂取しており、無症候性であったが、ウイルス血症は数ヶ月間持続した。	

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献No.
90156	2009/6/2	90236	E型肝炎	Clin Infect Dis 2009; 48: 373-374	急性白血痛の33歳の男性がE型肝炎を発症し、HEV遺伝子検査の結果、重複する時期に同じ病棟に入院していた別のE型肝炎患者から感染していたことが示唆された。	
90156	2009/6/2	90236	E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 2568-2576	日本全国でALT高値のため献血不適合となった献血者の血液検体に、HEVマーカー(HEV-RNA及び抗HEV抗体)が認められ、いずれのマーカーとも東日本の法が西より高かった。	
90156	2009/6/2	90236	HHV-8感染	Transfusion 2008; 48: Supplement 105A	米国の供血者のヘルペスウイルス8(HHV8)ゲノム陽性率について、高感度定量RT-PCR法(検出限界8コピー)より884名の検体を分析したがHHV8ゲノムは検出されず、健康な供血者におけるHHV8陽性率は非常に低かった。	
90156	2009/6/2	90236	HIV	Eurosurveillance 2008; 13(50): 19066	ヨーロッパにおいて報告された人口100万人当たりの新規HIV感染率は、2000年以降ほぼ2倍となった。2007年は、当該地域53カ国中49カ国から合計48,892例のHIV感染が報告され、エストニア、ウクライナ、ポルトガルとモルドバ共和国で感染率が最も高かった。	
90156	2009/6/2	90236	アメリカトリパノソマ症	AABB Annual Meeting and TXPO 2008-3	米国で2007年から開始された供血者に対するT. cruziスクリーニング検査の結果、2007年1月29日~2008年1月28日の陽性率は1/30,000であったが、受血者には明白な感染症例はなかった。最も陽性率が高い地域はフロリダ南部であった。	
90158	2009/6/18	90251	アメリカトリパノソマ症	CBER (http://www.fda.gov/cber/gdins/chagas.htm)	CBERから、輸血用全血、血液成分製剤、ヒト細胞・組織及びヒト細胞・組織由来製剤のTrypanosoma cruziが伝播する危険性を低減するための血清学的検査実施についてのガイダンス案を公表。	2
90158	2009/6/18	90251	アメリカトリパノソマ症	Emerg Infect Dis 2009; 15:653-655	ブラジルで2006年1~11月に発生したアメリカトリパノソマ症のアウトブレイク(178症例)について、調査の結果、アサイー果実を漬す際に、原虫を媒介するサンガメの排泄物が混入した可能性が考えられた。	3
90158	2009/6/18	90251	アメリカトリパノソマ症	ProMED-mail20090406.1328	ベネズエラでグアヴァジュースの摂取によるアメリカトリパノソマ症のアウトブレイクが発生し、中学校に通う児童47名と教師3名が感染。児童3名が死亡。	4
90156	2009/6/2	90236	アメリカトリパノソマ症	Transfusion 2008; 48: 1862-1868	スペイン、カタルーニャ血液銀行は、高リスク供血者におけるシャーガス病スクリーニング計画を実施し、供血者集団でTrypanosoma cruzi(T. cruzi)感染の血清学的陽性率を調査した。その結果、全体の陽性率は0.62%(1770名中11名)で、最も陽性率が高かったのはボリビア人であった(10.2%)。陽性者11名中1名は、シャーガス病流行地域に数年間滞在したことのあるスペイン人であった。非流行国の高リスク供血者にT. cruziスクリーニング検査を実施する必要性がある。	
90156	2009/6/2	90236	ウイルス感染	BuaNews online 2008年10月13日	南アフリカ、ヨハネスブルグで3名の死者を出したウイルスは、暫定的に西アフリカのラッサウイルスに近い、醫歯類媒介性アレンウイルスであると特定された。国立感染症研究所と保健省は共同で、このウイルスが体液を介してヒトからヒトに感染するため、「患者の看護に特別な予防的措置が必要である」との声明を発表した。3名の死因を確定するには更なる検査が必要である。	

血対 ID	受理日	番号	感染症 (PT)	出典	概要	新出文献 No.
90191	2009/8/28	90395	ウイルス感染	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日	日本国内の前立腺がん患者30例の血清のうち2例からGagに対する特異的抗体反応が認められ、そのうち1例からはXMRV (Xenotropic MuLV-related virus) 核酸を検出した。また、献血者120例中5例でもGagに対する特異的抗体反応が認められた。日本国内の前立腺がん患者集団中にもXMRV感染が存在することが示唆された。	
90171	2009/7/28	90312	ウイルス感染	N Engl J Med 2009; 360; 2099-2107	New Yorkの82歳の男性は、シカダニウイルスに感染したシカダニの咬傷後に髄膜炎で死亡した。これまでシカダニウイルスのヒト感染は報告されていないが、この症例はシカダニウイルスが致命的脳炎の原因でありうることを示している。	5
90167	2009/7/10	90294	ウイルス感染	PLoS Pathogens 2009; 4; e1000455	2008年に南アで発生した致死性出血熱のアウトブレイクにおいて、30年ぶりに新規の旧世界アレンウイルスが分離された。発見された地名 (Lusaka, Johannesburg) より、Lujo virusと命名された。	6
90168	2009/7/13	90295	ウイルス感染	ProMED-mail20090129.0400	ユンガンウイルスは、マウスにおいて胎児死亡や奇形を起こすことが知られているが、疫学的データから、ヒトにおいても子宮内胎児死亡に関連していることが示唆された。	7
90156	2009/6/2	90236	ウイルス感染	ProMED-mail20090218.0669	ナイジェリアでは、2008年1月から12月にかけて、229人のラッサ熱感染疑い患者が報告され、30人が死亡している。また、2008年12月～2009年1月に、感染疑い患者及び感染確定患者はそれぞれ60%及び80%増加している。	
90187	2009/7/10	90294	ウイルス性脳炎	CDC/MMWR 2009; 58: 4-7	米国ウエストバージニアで妊婦における初めてのラクロス脳炎ウイルス (LACV) 感染が見つかり、その後、分娩時の臍帯血からLACV抗体が検出され垂直感染が疑われたが、出生後6ヶ月までLACV感染兆候は見られていない。親が子の血清検体採取を拒否しており感染は確定できていない。	
90156	2009/6/2	90236	ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	2008年9月に、イタリアで何年かぶりにヒトのウエストナイルウイルス (WNV) 脳炎が2例報告された。1例目はFerraraとBolognaの間に住む80歳の女性、2例目はFerraraに住む80代後半の男性であった。また、ウマ8頭とトリ13羽でWNV感染が確認された。WNV髄膜炎の積極的サーベイランスプログラムが開始され、当該地域で供血者スクリーニング用NATが導入された。また、当該地域に1日以上滞在したことのある供血者を28日間供血延期する措置がとられた。	
90156	2009/6/18	90251	ウエストナイルウイルス	GDC( <a href="http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/surv&amp;controlCaseCount08_detailed.htm">http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/surv&amp;controlCaseCount08_detailed.htm</a> )	2008年、米国におけるウエストナイルウイルス感染症例は46州から1356例が報告され、うち687例では脳炎や髄膜炎を発生、死亡に至ったのは44例だった。	8
90190	2009/8/24	90392	エボラ出血	WHO (2009年2月3日)	2009年1月23日、フィリピンにおいてブタからの感染と考えられるエボラウイルス・レ斯顿株抗体陽性者が確認され、1月30日、さらに4例の抗体陽性者が確認されている。現在まで抗体陽性者の健康状態は良好であり、過去12ヶ月以内に主だった症状を呈していない。	

血対 ID	受理日	番号	感染症 (PT)	出典	概要	新出文献 No.
90157	2009/6/18	90249	コクシジオイデス症	CDC/MMWR 2009; 58: 105-109	カリフォルニア州におけるコクシジオイデス症の報告数及び入院数は2000～2008年の間毎年増加しており、1995～2000年の3倍以上(8/10万人)となった。米国のコクシジオイデス症全体の約80%を占めるアリゾナ州でも同様で、2008年には5,535例(91/10万人)と増加している。米国全体でも、1996年の1,697例から2008年には8,917例(6.97/10万人)に増加しており、流行地への訪問や居住歴のあるインフルエンザ様症状や肺炎、播種性感染症の患者では本症が鑑別されるべきである。	
90163	2009/6/25	90272	コレラ	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日②	ジンバブエ保健当局からのコレラアウトブレイクの報告。2008年8月26日から2009年1月31日までに61,304例の感染疑い、3,181例の死亡。また、ボツワナ、モザンビーク、ケニヤ、マラウイ、ナミビア、ナイジェリア、ギニアビサウ及びトーゴといった周辺国からも発生が報告されている。	
90156	2009/6/2	90236	バベシア症	2009 Feb 23; New York City, Department of Health	2008年9月以降の6ヶ月間、ニューヨーク市において輸血関連バベシア症の報告急増。市衛生局は医療従事者に対し、3ヶ月以内に輸血又は臓器移植の既往歴があり、発熱/溶血性貧血を呈する患者の鑑別診断にバベシア症を考慮するよう勧告した。	9
90156	2009/6/2	90236	バベシア症	AABB Annual Meeting and TXPO 2008-2	輸血を介したバベシア症死亡例の報告。1998年の1例以降しばらく無かったが、2006年1～10月にはFDAに5例が報告された。生物学的製品逸脱報告サマリーでは、過去10年間にバベシア症関連報告が68件あり、近年この報告が増加傾向にあることは、バベシア症伝播に係る輸血関連リスクが増加していることを示している。	
90170	2009/7/17	90298	バベシア症	Clin Infect Dis 2009; 48: 25-30	バベシア感染に関して、FDAは供血者及び受血者の死亡報告を2005年に2例、2006年に3例、2007年に3例受けていた。受血者は輸血後2.5～7週で症状が進展し、輸血後2ヶ月以内に死亡した。	
90156	2009/6/2	90236	マラリア	AABB Annual Meeting and TXPO 2008-4	オーストラリア赤十字は2005年7月から、マラリア感染のリスクのある供血者に対し、従来の医療歴・渡航歴の収集から、リスクへの暴露を特定した時から最低4ヶ月間のマラリア抗体のスクリーニングを実施する代替戦略を導入した結果、既存の供血者に由来する輸血可能な製剤の製造効率は著しく向上し、輸血伝播マラリア症例の報告もなかった。	
90156	2009/6/2	90236	マラリア	Am J Trop Med Hyg 2009; 80: 215-217	1997年より韓国軍はヒドロキシクロロキン及びプリマキンをを用いた予防的薬療法を実施し、マラリア患者の急増を防ぐことができたが、調査登録患者484名中2名にクロロキン耐性Plasmodium vivaxを確認した。	
90163	2009/6/25	90272	マラリア	CDC/MMWR 2009; 58: 229-2	近年、5番目のマラリア原虫として、サルマリアであるPlasmodium knowlesiのヒトへの感染例がマレーシア及びその周辺において多数確認されており、人畜共通感染症の病原体として新興している可能性が示されている。	
90156	2009/6/2	90236	リケッチア症	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	米国ミネソタ州の88歳男性が、2007年10月12～21日に手術後の輸血を受け、敗血症および多臓器不全をきたした後、10月31日に発熱を伴う急性血小板減少症を発現し、11月3～5日の血液検体からPCR及び抗体検査でアナプラズマ症感染が確認された。血液ドナーの1人にA. phagocytophilum陽性がPCR及びIFA検査で確認され、血液ドナーに感染源が確認された初の事例となった。	

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献No.
90156	2009/6/2	90236	リケッチア症	JAMA 2008; 300: 2263-2270	中国安徽省でヒト顆粒球性アナプラズマ症(HGA)と症状が一致する患者は、2006年10月30日に発症し、11月5日に死亡した。確定診断はされなかったが、発症する12日前にダニに刺されていた。11月9-11日に、この患者の血液および呼吸器分泌物との直接接触によると思われる症例9例が報告され、HGAと確定診断された。中国におけるHGA症例の初めての報告である。	
90171	2009/7/28	90312	リケッチア症	第83回日本感染症学会総会 2009年4月23~24日	平成20年8月、仙台市においてリケッチア症を疑う患者が発生した。生検材料を用いたPCRにより陽性であったが、シークエンス解析により、ロシアや中国の患者から報告されているR.heilongjiangensisに一致した。国内に、日本紅斑熱とは異なる紅斑熱ケッチア症が存在することが示された。	10
90163	2009/6/25	90272	リケッチア症	日本細菌学会第82回総会 P2-182	Anaplasma phagocytophilumによるアナプラズマ症の本邦初の症例。2002~2003年の高知県で日本紅斑熱が疑われた18例の血餅から、2例で、A. phagocytophilumに特異的なp44/msp2外膜蛋白遺伝子群のPCR産物が検出された。	
90163	2009/6/25	90272	レトロウイルス	CDC/Travelers Health 2009年2月4日	日本国内の前立腺がん患者30例の血清のうち2例からGagに対する特異的抗体反応が認められ、そのうち1例からはXMRV (Xenotropic MuLV-related virus) 核酸を検出した。また、献血者120例中5例でもGagに対する特異的抗体反応が認められた。日本国内の前立腺がん患者集団中にもXMRV感染が存在することが示唆された。	
90156	2009/6/2	90236	レンサ球菌感染	Transfusion 2008; 48: 2177-2183	米国、ルーチンの細菌培養スクリーニングを実施したプール血小板の輸血を受けた患者が、C群連鎖球菌感染症により死亡した。遡及調査の結果、無症候性の献血者が原因と考えられた。現在の検査法の限界を示す報告。	
90172	2009/7/28	90317	レンサ球菌感染	日本化学療法学会第57回総会 201	50代後半の男性が右母指のウオノメをカッターで自己切除したところ黒変し、その範囲は急速に拡大。右下肢の腫脹が起こり入院。右母指には悪臭と壊疽を伴う重度の蜂巣炎、X線所見で右大腿部にガス像を認めた。Streptococcus dysgalactiae subsp. dysgalactiaeによる初めてのヒト感染例と考えられる。	11
90167	2009/7/10	90294	黄熱	ProMED-mail20090402.1 272	サンパウロ奥地において2009年2月より黄熱が流行しており、その中で母子感染が確認された。初の黄熱の母子感染報告である。	
90156	2009/6/2	90236	感染	BMJ 2008; 337: a2622	欧州における2006年の感染症の発生報告はクラミジアが最も多く、以下、ランブル鞭毛虫症、カンピロバクター症、サルモネラ症、結核、流行性耳下腺炎、淋病、C型肝炎、慢性的肺炎球菌疾患、HIVの順であった。	
90156	2009/6/2	90236	感染	http://www.fda.gov/cber/blood/fatal07.pdf.	2007年度のCBERIに報告された供血後及び輸血後の死亡例概要。受血者76件、献血者17件の死亡報告。受血者死亡の内訳は、52件が輸血関連もの、11件が輸血関連性否定できないもの、13件が輸血と関連しないものであった。	

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献No.
90156	2009/6/2	90236	感染	http://www.fda.gov/cber/blood/fatal08.pdf.	2005~2008年度のCBERIに報告された供血後及び輸血後の死亡例概要。2008年度は、受血者72件、献血者10件の死亡報告。受血者死亡の内訳は、48件が輸血関連もの、8件が輸血関連性否定できないもの、18件が輸血と関連しないもの、微生物感染はパペシア症5件、Staphylococcus aureus、Staphylococcus epidermidisがそれぞれ1件、05~08年度の微生物感染28件中、10件をパペシア症が占めている。	12
90156	2009/6/2	90236	細菌感染	Am J Infect Control 2008; 36: 602	減量法として両耳の上部耳介軟骨に置き鍼治療(Stapling)を受けた16歳の女性が、2週間後に左耳の鼓膜周囲の紅斑および疼痛を呈した。膿瘍ドレナージ検体の培養および感受性試験の結果、両耳で著しい緑膿菌の生育が認められた。21日間の経口シプロフロキサシン投与により回復した。外耳軟骨は、血流に乏しく特に感染しやすい。耳鍼が危険な緑膿菌感染を起こす可能性があることを医師は認識するべきである。	
90156	2009/6/2	90236	細菌感染	Transfusion 2008; 48: 2348-2355	全血血小板の細菌汚染リスクを低減させるためには、初流血除去及び細菌培養によるスクリーニングが有効な方法であることを示す報告。	
90157	2009/6/18	90249	細菌感染	日本細菌学会第82回総会 P2-182	Anaplasma phagocytophilumによるアナプラズマ症の本邦初の症例。2002~2003年の高知県で日本紅斑熱が疑われた18例の血餅から、2例で、A. phagocytophilumに特異的なp44/msp2外膜蛋白遺伝子群のPCR産物が検出された。	
90158	2009/6/18	90251	BSE	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esbmonde.htm.)	1989年から2008年までに、世界各国(英国を除く)から国際獣疫事務局(OIE)に報告されたBSEの報告数である。	13
90158	2009/6/18	90251	BSE	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esbru.htm.)	1987年以前から2008年までに、英国から国際獣疫事務局(OIE)に報告されたBSEの報告数である。	14
90156	2009/6/2	90236	クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2009; 15: 265-271	孤発性CJD(sCJD)と医学的処置との関連性を解明するために、日本における1999~2008年の期間にCJDサーベイランス委員会に登録された患者について分析した。その結果、sCJD発症前に施行された医学的処置によりプリオン病が感染した証拠はみづからなかった。	
90156	2009/6/2	90236	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	オーストリアの39歳男性が感覚異常などの神経症状で入院後、急速に悪化し、4ヶ月後に死亡した。組織学的検査で海綿状変化、神経細胞脱落及びグリオシスが、免疫組織化学的検査でびまん性シナプティックな異常プリオンの沈着が見られ、CJDと診断された。また患者のPRNPは129Met-Metであった。患者は22年前まで死体由来のヒト成長ホルモン(hGH)製剤治療を受けており、医原性リスクが認められるため、孤発性若年性CJDの可能性も否定できないが、WHO基準により確定医原性CJDと分類された。	
90156	2009/6/2	90236	クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion Epub 2009 Jan 5	米国、輸血のCJD伝播リスクについて、後にCJD発症した献血者36例と受血者436例を調査。受血者のうち生存91例、死亡329例、不明16例。受血後にCJDを発症した例は特定されず。	15

血対 ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出 文献 No.
90170	2009/7/17	90298	クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion; 49(5): 977-984	米国での調査研究の結果は、輸血によるCJD伝播については根拠に欠けるとしている。2004年以降、英国ではvCJDの輸血による伝播が報告され、変異型でないCJDもしくは古典的CJDの伝播のリスクについては懸念が高まってきた。1995年、米国赤十字社はCDCと共同で輸血によるCJD伝播の懸念を評価する詳細な疫学的データを得るために、供血後にCJDと診断された供血者(CJDDナー)の長期後向き調査を開始し、CJDDナーの血液成分を授与された受血者を特定した。本結果からは、CJDの輸血による伝播を示す根拠は示されなかった。CJDDナーによる異常プリオンの輸血伝播のリスクは、vCJDDナーによる伝播のリスクと比べて顕著に低いことを後押しする結果となった。	16
90171	2009/7/28	90312	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Agency 2009/05/22	2004年にHealth Protection Agencyは扁桃腺に蓄積されたvCJD関連プリオンタンパク質の大規模な調査により、無症候性vCJD保有率を検討するNational Anonymouse Tissue Archive(NATA)を開始。既に63000例の扁桃腺組織の収集・解析を行っており、100000例まで収集する計画であるが、現在のところ陽性サンプルは一つもなかった。	17
90156	2009/6/2	90236	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	vCJDと関連のない疾患で死亡し、生前にvCJD又は他の神経学的症状を示していなかった男性血友病患者の剖検時に、異常プリオンタンパクが確認された。この男性は、献血後にvCJDを発症したドナー血漿を含む原料から製造された第四因子製剤を使用した。	
90165	2009/6/28	90275	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb February 17, 2009	1996年に血漿を提供し、その6か月後にvCJDを呈したドナーの血漿由来の第四因子製剤を使用した血友病患者について、この度、検死によりvCJD感染が報告された。血漿分画製剤によるTSE伝播の可能性を示唆する初の報告である。	
90157	2009/6/18	90249	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurology 2009; 8: 57-66	BSEプリオンに対するヒトの感受性についてSNPを解析した。PRNP遺伝子座はプリオン病のいくつかのマーカータと全てのカテゴリーを通じてリスクに強く関連していた。疾病リスクへの主な寄与はPRNP多型コドン129であったが、別の近傍のSNPによってvCJDのリスク増大がもたらされた。	
90156	2009/6/2	90236	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2009; 457: 1079	最近、非定型BSEが日本、カナダ、米国、複数のヨーロッパ諸国で発生している。非定型BSEの可能性のあるプリオン遺伝子の突然変異は豪州や新西蘭でも発生する可能性があり、反芻動物の厳密な飼料管理等、将来のアウトブレイクの防止に必要な規制を確立すべきではない。	18
90159	2009/6/18	90252	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esbmonde.htm)	1989年から2008年までに、世界各国(英国を除く)から国際獣疫事務局(OIE)に報告されたBSEの報告数である。	
90159	2009/6/18	90252	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esbru.htm)	1987年以前から2008年までに、英国から国際獣疫事務局(OIE)に報告されたBSEの報告数である。	

血対 ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出 文献 No.
90156	2009/6/2	90236	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	非定型BSE(BASE)に感染した無症候のイタリアの乳牛の脳ホモジネートをカニクイザルに脳内接種した。BASE接種サルは生存期間が短く、古典的BSEまたはvCJD接種サルとは異なる臨床的展開、組織変化、PrPresパターンを示した。感染牛と同じ園の孤発性CJD患者でP-Pが異常なウエスタンブロットを示す4例のうち3例のPrPresと同じ生化学的特徴を認めた。BASEの量長類における高い病原性および見かけ上孤発性CJDである症例との関連の可能性が示唆された。	
90158	2009/6/18	90251	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20090108.078	英国CJDサーベイランスユニットの統計によると、2009年1月5日時点でvCJD死亡患者数総数には変化はなく167例のままであり、英国におけるvCJD流行は減少しつつあるとする見解に一致する。	19
90156	2009/6/2	90236	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2008; 48: Supplement 33A	米国での古典的CJDを発症した供血者計35名に由来する血液成分の受血者430名の選及調査の結果、孤発性CJDが輸血で伝播する証拠は無く、リスクはvCJDと比較して有意に低かった。	
90157	2009/6/18	90249	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96: 270	1995年から3回/週でIVIG治療を受けていた61歳女性は、1997年1月～1998年2月の期間に、後にvCJDを発症した供血者由来の製剤を使用していた。この女性の死亡後、剖検により脾臓、リンパ節、脳内のプリオン蛋白を検査したが、検出されなかった。	
90190	2009/8/24	90392	インフルエンザ	FDA/CBER 2009年5月7日	新型インフルエンザ(H1N1)の輸血を介した感染可能性について、輸血により季節性インフルエンザに感染した例はこれまで報告されなかったことが無く、新型インフルエンザについても報告されていない。現時点で、輸血のメリットは新型インフルエンザの理論的リスクをはるかに上回る。なお、血漿分画製剤については製造工程におけるクリアランスが十分であることが確認されている。	20
90157	2009/6/18	90249	インフルエンザ	MMWR 2009; 58: 1-3	2009/4/17米CDCはカリフォルニア南部の小児2例の熱性呼吸器疾患をブタインフルエンザA(H1N1)感染であると特定した。アマダジン、リマンダジンに抵抗性があり、過去に報告されていない固有の遺伝子断片の組み合わせが含まれていた。ブタ接触歴は無く感染源は不明。	21
90158	2009/6/18	90251	インフルエンザ	Virus Res. 2009; 140: 85-90	中国のブタからヒト様H1N1インフルエンザウイルスが検出され、ブタがヒトにおけるパンデミックを引き起こす古典的インフルエンザウイルス保有宿主である証拠が示された。	22
90190	2009/8/24	90392	新型インフルエンザ	WHO/EPR 2009年4月24日、2009年4月27日 WHO/Media centre 2009年4月27日	・米国、メキシコにおけるインフルエンザ様疾患について：米国政府は米国内の7人の豚インフルエンザA(H1N1)確定症例(5人がカリフォルニア、2人がテキサス)と9人の疑いがある症例を報告した。死亡症例は報告されていない。メキシコ政府は3つの別々の事例を報告しており、メキシコ連邦区ではインフルエンザ様疾患が挙がり始め、4月23日までに854人以上の肺炎が発生し、うち、59人は死亡している。 ・豚インフルエンザupdate3: 豚インフルエンザA(H1N1)の発生状況は刻々と変化しており、2009年4月27日現在、米国では40症例(死亡例なし)、メキシコでは7症例の死亡を含む28症例で同ウイルスへの感染が確認された。 ・豚インフルエンザ: 国際保健規則(2005年)の元設立された緊急委員会が2009年4月27日、2回目となる会合を開催した。	23

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献No.
90170	2009/7/17	90298	新型インフルエンザ(H1N1)	CBER 2009年4月30日	新型インフルエンザ(H1N1)の輸血を介した感染可能性について。輸血により季節性インフルエンザに感染した例はこれまで報告されたことが無く、新型インフルエンザについても報告されていない。現時点で、輸血のメリットは新型インフルエンザの理論的リスクをはるかに上回る。なお、血漿分画製剤については製造工程におけるクリアランスが十分であることが確認されている。	24
90185	2009/8/24	90387	新型インフルエンザ(H1N1)	CIDRAP News 2009/04/24	2009年4月24日、CDCはメキシコでの致死的な呼吸器疾患発症例から分離されたウイルスは米国の患者のブタインフルエンザA/H1N1株と一致したと発表した。米国での感染例は現在8例である。メキシコ政府の公式発表では、メキシコシティにおいて854例以上の肺炎患者が発生し、そのうち59例が死亡している。	25
90171	2009/7/28	90312	新型インフルエンザ(H1N1)	MMRW 2009; 58: 521-524	05~06年、06~07年、07~08年の季節性インフルエンザワクチン接種コホートの保存ベア血清を用いて、新型インフルエンザウイルスの交差反応性を検討した。18-64歳ではワクチン接種前に6~9%、60歳以上では33%が交差反応を示した。ワクチン接種後には交差反応を示した例が18-64歳で2倍程度に増え、60歳以上では全く増えなかった。	26
90163	2009/6/25	90272	新型インフルエンザ(H1N1)	MMWR 2009; 58: 1-3	2009年4月、南カリフォルニア周辺郡の小児2人がブタインフルエンザA(H1N1)ウイルスに感染した。2症例から検出されたウイルスは、米国やそれ以外の国でも報告されることがないブタ又はヒトインフルエンザウイルスの遺伝子片を併せ持っていた。いずれの小児もブタとの接触はなく、感染源は不明である。	27
90171	2009/7/28	90312	新型インフルエンザ(H1N1)	Science 2009; 10.1126/SCIENCE.1176062	新型インフルエンザA(H1N1)ウイルスは世界中に急速に広まっている。パンデミックの可能性を判断するのはデータが限られているため難しいが、適切な保険対応を伝えるには必須である。メキシコでの大流行、国際的な広がり、早期情報およびウイルス遺伝的変異について分析することにより、感染力と重症度の早期評価を実施した。	28
90172	2009/7/28	90317	新型インフルエンザ(H1N1)	共同通信HP 2009年4月28日	WHOは新型インフルエンザのPandemic Alertをフェーズ4に引き上げた。	29
90172	2009/7/28	90317	新型インフルエンザ(H1N1)	WHO 2009年4月28日	WHOは新型インフルエンザのPandemic Alertをフェーズ4に引き上げた。	30
90168	2009/7/13	90295	新型インフルエンザ(H1N1)	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009年5月16日	兵庫県神戸市における新型インフルエンザ(インフルエンザA/H1N1)が疑われる患者発生についての報告。国内最初の新型インフルエンザ患者が確認された。患者は10代後半の男性。本人に渡航歴はない。国立感染症研究所からの検査の結果、A型(+)、ヒトH1(-)、ヒトH3(-)、新型H1(+)であったため、新型インフルエンザ(インフルエンザA/H1N1)が否定せず、新型インフルエンザが疑われる患者として神戸市に届出があった。患者は感染症法に基づき、神戸市内の感染症指定医療機関に入院した。	31